



四日市港北部、海岸・緑地公園めぐり

四日市市

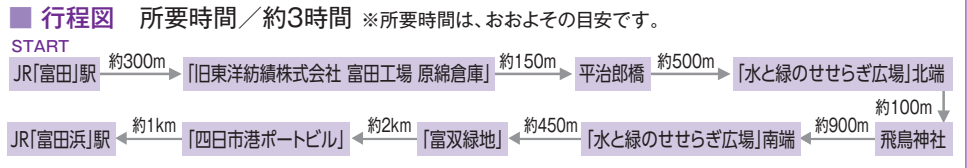
富田く富州原町く霞

古くから天然の良港として知られた四日市の「湊」は、明治時代以降は近代港湾へと姿を変え、明治32(1899)年に開港場に指定されました。開港場とは、外国との通商・貿易を許された港のことで、以来、四日市港は中部圏を代表する国際貿易港としての道を歩み始めました。

石油コンビナートの稼働やコンテナ埠頭(ターミナル)の完成など、拡大・発展を続ける四日市港の北部に位置する霞ヶ浦地区に「四日市港ポートビル」が誕生したのは、平成11(1999)年のこと。開港100周年を記念して建てられた同ビルからは、コンビナート群などが眺望できます。中でも夜景の美しさは格別で、「日本夜景遺産」の施設型夜景遺産部門に認定されました。

今回は、JR「富田」駅から「四日市港ポートビル」へと歩きます。道沿いには歴史的建造物や緑豊かなくろぎスポットもあり、見どころ満載です。

取材・文…中村真由美



赤レンガ倉庫群

今回の散策の起点は、JR「富田」駅です。富田といえば、江戸時代には東海道の桑名宿と四日市宿の「間の宿」として賑わったところ。街道沿いには「焼蛤」を商う茶屋が軒を連ねていたといいます。また、同駅の西口から徒歩5分の距離に鎮座する鳥出神社には、装飾を凝らした鯨船が張り子の鯨を追い回す模擬捕鯨行事が受け継がれています。この「鳥出神社の鯨船行事」は、平成28(2016)年に全国33の「山・鉾・屋台行事」の一つとして、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載され、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。



鳥出神社

さて、今回は四日市港をめざすため、駅の東口から出て、南東へと進みます。すると、レンガ造りの建物群が現れました。三角形の屋根が印象的な建物は、「旧東洋紡績株式会社 富田工場 原綿倉庫」です。「東洋紡績株式会社」は、四日市の事業家・伊藤 伝七(でんしち)が創設した「三重紡績会社」と、「大阪紡績会社」が大正3(1919)



旧東洋紡績株式会社 富田工場 原綿倉庫 (国登録有形文化財)

14)年に合併して誕生した会社で、富田工場は約20万平方メートルの敷地面積を誇りました。なお、原綿とは加工前の精錬されていない綿のこと。四日市の近代化を支えた紡績工場の姿を今にとどめる倉庫は、現在は「イオンモール 四日市北」のレストラン棟として利用されています。

せせらぎを聞きながら 旧運河を歩く

堅牢な造りの倉庫群を眺めながら歩いていくと、目の前に見えるのが平治郎橋です。橋を渡れば、漁師町の風情が残る富田一色町に入りますが、今回は橋のたもとから階段を下りてみます。すると、清流に沿って遊歩道が整備されていました。ここは、江戸時代後期には運河だったところで、富田本町から富田一色にいたる右岸側には、酒蔵・米蔵・いさば(乾物)倉庫などが建ち並んでいたといわれています。かつて「塩役運河」と呼ばれていた流れは、平成3(1991)年度から



高さ100メートルの「四日市港ポートビル」

同緑地でくつろいだ後は、「四日市港ポートビル」へ。途中、国道23号の歩道を5分ほど歩くため、車に十分注意しながら進みます。「浜園緑地」の中を通り



「富双緑地」からの眺め

キリンのような姿のガントリークレーンや煙突に加え、「四日市港ポートビル」も一望できました。

抜け、霞大橋を渡れば、同ビルは目前です。14階の展望展示室「うみてらす14」(有料)では、同港の歴史や役割、働く人々の仕事などがわかりやすく解説されています。展望ロビーからは、林立するコンビナート群や、カラフルなコンテナが整然と並ぶ様子を見渡せました。方角によって景色が異なるため、時間を忘れて見入ってしまいます。なお、平日(水曜日休館)の開館時間は午後5時までですが、土・日・祝日は午後9時まで(いずれも入館は閉館の30分前まで)となっているため、工場夜景を心ゆくまで楽しむことが可能です。

「うみてらす14」から北東方向を望む



「うみてらす14」から北東方向を望む



「うみてらす14」内部



光とコンビナート群が織りなす絶景を堪能※

問 一般社団法人 四日市観光協会
TEL 059-357-0381
四日市港管理組合振興課
TEL 059-366-7022

※印の写真は取材先から提供していただきました

同8(1996)年度にかけて整備され、「水と緑のせせらぎ広場」となりました。同広場の延長は約900メートルありますが、歩くにつれて風景が変化するため、飽きることがありません。また、すぐ近くの県道を走る車が視界に入らないため、ウォーキングや犬の散歩を楽しむ人々が行き交います。北端まで歩けば、「富田一色けんか祭り」で名高い飛鳥神社は徒歩数分の距離。ここも見逃せない場所です。「富田一色けんか祭り」とは、



「水と緑のせせらぎ広場」



鈴鹿山脈を源とし、伊勢湾へ流れる川・運河をイメージ

8月14日・15日に行われる祭りでも、重さ100キログラムの大鉦を飛鳥神社に入れようとする組と、入れさせまいとする町衆の激しい攻防戦が見ものとなっています。

「富双緑地」から「四日市港ポートビル」へ

飛鳥神社に別れを告げて、再び「水と緑のせせらぎ広場」に戻り、南へ向かいます。平治郎橋をくぐってさらに歩く

と、やがて南端に到着。ここで海岸めざして左折し、住宅地を10分ほど歩くと光景は一変、目の前を国道23号が横切りまします。この国道を横断歩道橋で渡れば、その先に広がるのが「富双緑地」と四日市港です。

「富双緑地」は、海岸沿いに整備された公園で、その広さは9.6ヘクタール。自転車に乗る練習をする親子や、ボール遊びに興じる少年たちがいました。海に面して設置されたベンチに座ると、巨大な



飛鳥神社